

短期大学のインパクト
— JJCSS2009より —
(2) 教育系短期大学のインパクト

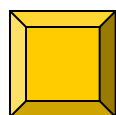
相原総一郎(大阪薫英女子短期大学)

発表の目的

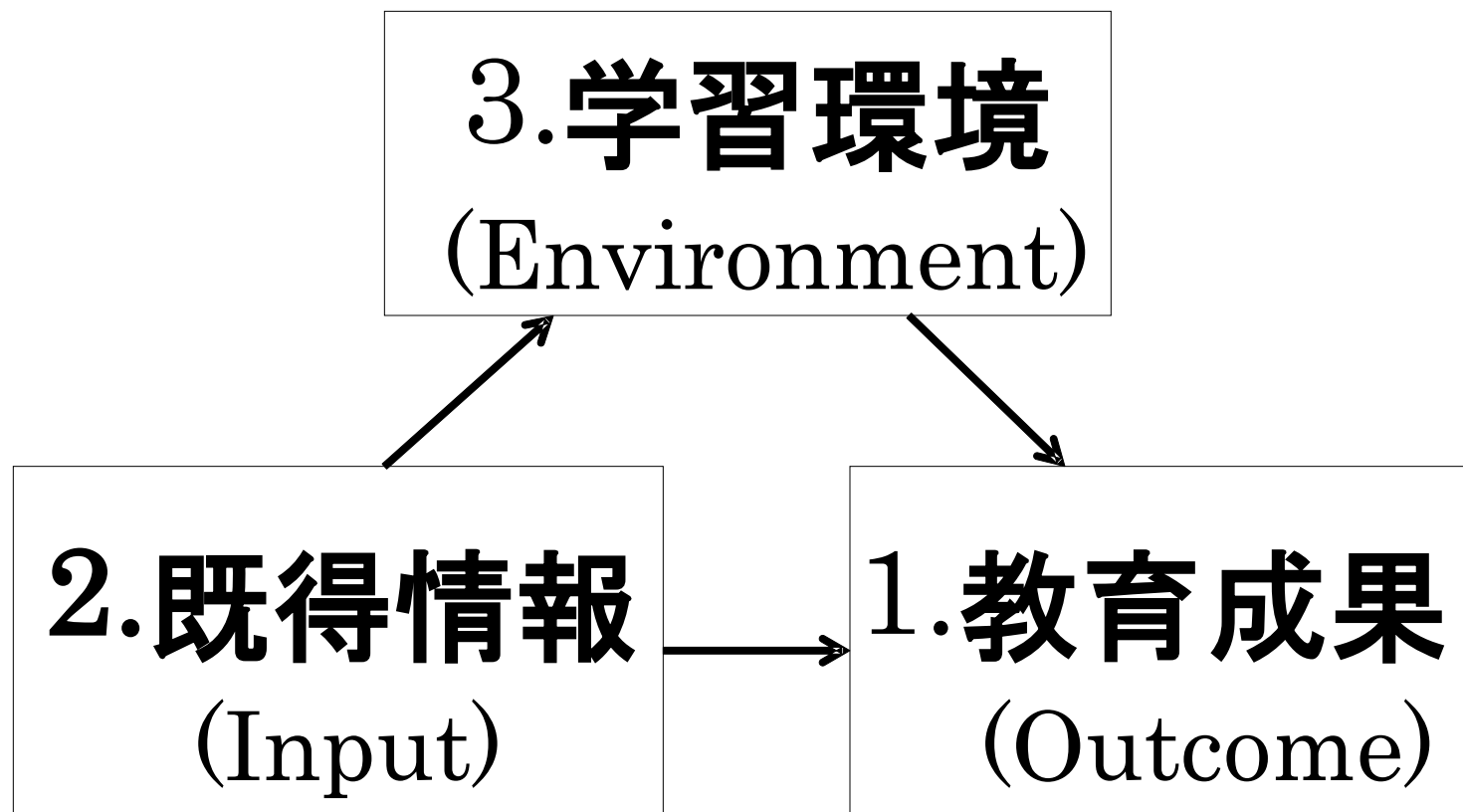
1. 教育成果の規定要因を確定
→ 短期大学教育の教育改善
2. I-E-Oモデル: (E)環境の精緻化
→ アステインの関与理論を発展

◎ データ

短期大学生調査(JJCSS)2009年より
教育系短期大学生(2,419人)



アステインのI-E-Oモデルより



出典：山田礼子編(2009),p.15より修正



発表の構成

はじめに アステインのI-E-Oモデルより

1. 教育成果(Outcome): 基礎的専門知

・アステインの教育成果の分類

2. 既得情報(Input): 36項目

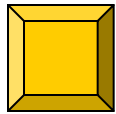
3. 学習環境(Environment): 88項目

・学生の関与 → 教員支援・学友関係

学習スキル・学びの実態

4. 教育成果の規定要因分析

(1) I-Oモデル (2) I-E-Oモデル

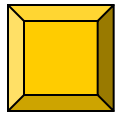


1. 教育成果：基礎的専門知

1 他の人と協力して物事を遂行する能力	. 745
2 人間関係を構築する能力	. 736
3 コミュニケーションの能力	. 695
4 卒業後に就職するための準備	. 559
5 専門分野や学科の知識	. 549
6 分析や問題解決能力	. 543
7 リーダーシップの能力	. 542
8 一般的な教養	. 522
9 時間を効果的に利用する能力	. 520
10 文章表現の能力	. 479
11 プレゼンテーションの能力	. 473

* 問22より因子分析で作成



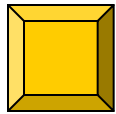


アステインの教育成果の分類

	認知	情緒
内面	教科・領域別知識 学習能力 批判的思考力 基礎学習技術 特殊技能 学習達成度	価値 関心 自己概念 態度 信念 大学満足度
行動	学位取得 職業達成 褒賞や表彰	リーダーシップ 人間関係 市民性 趣味

出典：山田礼子編(2009),p.17,より作成。



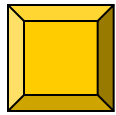


2. 既得情報：36項目

性別(Q1：ダミー変数)、年齢(Q2)、入学年度(Q3)、
高校の成績(Q7)、高校設置者(Q8A 私立ダミー変数)、
共学・別学(Q8B)、進学の原因(Q11：18項目)、留学生(Q12)、
志望順位(Q31)、入試タイプ(Q32：4項目ダミー変数)、
受験意思の決定時期(Q33：5項目ダミー変数)、
第一世代学生(Q34A)

* 専門分野の選択(Q15)は「9.教育」だけ





3. 学習環境：88項目

①居住形態 …………… 居住(Q5：2項目ダミー変数)・通学時間 (Q6)

②財政援助 …………… 奨学金の有無(Q9：5項目ダミー変数)

③学生関与 …………… 履修状況(Q10：8項目ダミー変数)、
学習支援(Q13：4項目)、学習行動(Q14：27項目)、
時間配分(Q17：13項目)、学生生活(Q18：10項目)、
教員の支援(Q21：11項目)、学習スキル(Q23：7項目)

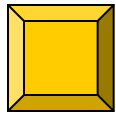
教員支援・学友関係

学習スキル・学びの実態

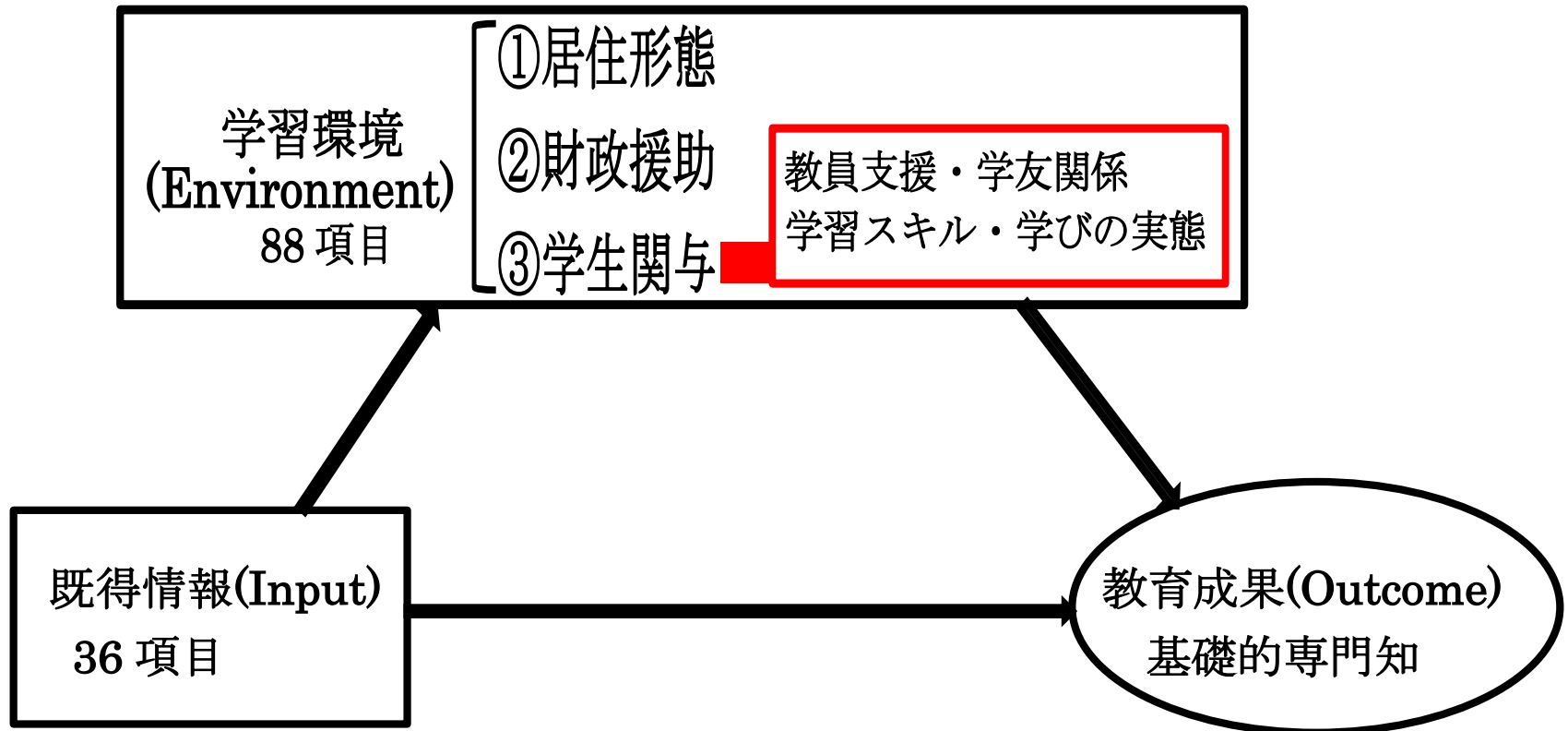
* 短大の特性など大学レベルのデータはない。設置者は私立。

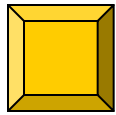
* 就活の状況(Q27)は2年次生のみ有効であるため除外。





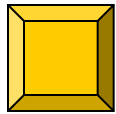
4. 教育成果の規定要因分析





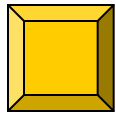
4. 教育成果の規定要因分析(1)

I-Oモデル 既得情報		β
	高校の成績	.110
	入学年度	.158
進学 の 理 由	高校卒業後すぐに働きたくなかった	-.110
	本学で学ぶ内容に興味があった	.142
	専門学校より幅広い勉強ができる	.112
	学生生活を楽しんでみたかった	.123
	資格をとるために必要だった	.110



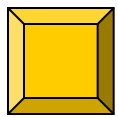
4. 教育成果の規定要因分析(2)

I-E-Oモデル 1)既得情報		β
進学 の 理 由	高校の成績	
	入学年度	.113
	四年制大学より早く就職できる	.065
	高校卒業後すぐに働きたくなかった	-.071
	本学で学ぶ内容に興味があった	.069
	専門学校より幅広い勉強ができる	
	学生生活を楽しんでみたかった	.071
	資格をとるために必要だった	



4. 教育成果の規定要因分析(2)

I-E-Oモデル 2)学習環境		β	
学生の関与	教員支援	大学教員と顔見知りになる	.130
		専門的な目標を達成する手助け	.126
	学友関係	他の学生との友情を深める	.210
		学習スキル	時間を効果的に使う
	学びの実態	授業に遅刻した	-.087
		研究や宿題のために図書館を利用した	.091
		取りたい授業を履修登録できなかった	-.098



まとめ

- ・I-E-Oモデルに依拠して教育成果の規定要因を確定



(教育成果) 基礎的専門知
(規定要因)

- ・学生の関与(Student Involvement)が重要
 教員支援(Involvement with Faculty)
 学友関係(Involvement with Peers)
 学習スキル(Academic Skills)
 学びの実態(Academic Involvement)



- ・アステインのI-E-Oモデルと関与理論の有効性を確認



今後の課題

使用データ: 短大生調査(JJCSS)2009年の個票
教育成果: 新入生の時点を回顧した自己申告



- ・事前テスト(Pre-test)と事後テスト(Post-test)の比較
- ・機関レベルや教員調査のデータを追加
- ・I-E-Oモデルと関与理論の洗練と有効性の拡大
教員支援・学友関係・学習スキル・学びの実態の構造化
教育系短大から個別大学、他の専門分野、4年制大学へ

ご静聴ありがとうございました。

連絡先: 大阪薫英女子短期大学 相原総一郎

soi-aihara@kun.ohs.ac.jp

